



北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

ほほえみ通信

Vol. 124

2019/7/25 発行

第124回 ほほえみ 開催

7月17日（水）第124回 ほほえみを開催しました。
今回は9名の方が参加してくれました。

今回初めて参加された方が1名いらっしゃいましたが、他院の先生から紹介されたとのことでした。紹介いただいたこと大変うれしく思います。当サロンの参加対象は当院に限っていませんので、他院に通院・入院中の患者さんやご家族の方にも是非参加いただければと思います。



次回のほほえみは、8/21（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

【がんサロン事務局より】

『“標準治療”という言葉に感じる頼りなさ』

（がん体験記）

がんになると、よく“標準治療”という言葉を目にします。

「“標準”？ なんだか効きそうにもない言葉だなあ・・・」

そんなイメージを持っていました。なんとなく、“一步遅れた治療”のような気がしていたのです。

「最先端の治療の方が、がんが治るような気がする」

そう思っていました。

でも、それは間違いでした。どうやら、「最先端の治療がいい」というわけではないようなのです。

なぜなら、最先端の治療は、まだ副作用や病気への効果が認められていない状態。臨床試験で安全性などが認められれば、そこではじめて“標準治療”となるらしいのです。

なので“標準治療”は決して“古い治療”ではなく、常に“新しい治療”ということ。日々、更新されている治療なのです。

「がん治療は、最先端の治療の方が治りそう」と感じていましたが、“標準治療が最新の安全な治療”と知り、なんだか安心したのを覚えています。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）